

在宅医療支援システム研究会次第

日時 平成28年9月27日（火）
18時30分～

場所 介護老人保健施設くろかみ 研修室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告・紹介事項

(1) 老健大会でのテレビ会議活用事例報告について

(2) 横山先生から

(3) その他

4 協議事項

(1) 認知症ケアに係る医療連体制整備事業について

(2) その他

5 その他

次回開催日

平成28年 月 日（ ）

9月15日(木) 15:00～16:00 第17会場 リーガロイヤルホテル W2F ダイヤモンドルーム
業務改善と効率化(3) [座長] 菊地 大輔(介護老人保健施設N A C湯村)

第1群：102 通所リハビリ

第2群：202 症例・事例による貴重な意見

第3群：P 3375 業務改善と効率化 その他の業務改善関連

ICT利活用によるリハ会議充実の取組み

介護老人保健施設 くるかみ

石田 辰彦、山下 裕実

当地域は、793平方キロメートルと広大で、会議参加の移動時間が課題となっている。そこでICTを活用し、移動時間の短縮を試みた。その結果、会議参加困難な者の参加が得られ会議がより良いものとなった。

【はじめに】岡山県の北西端に位置し広島県、鳥取県に接し、総人口31,980人、面積793.29Km²、人口密度39.2人/Km²、高齢化率38.4%と過疎化、高齢化が著しい新見市の中心部に当施設は位置しており、平成10年に新見医師会により独立型として入所定員100名、通所定員30名で設立されました。通所リハビリテーションのサービス充実を図るため、平成27年8月からリハビリテーションマネジメント加算II（以下、リハマネII）への取組みを開始しました。サービス提供範囲が市内全域のため、訪問に片道1時間近くかかることも多く、会議を施設外で行うことが困難で、リハマネIIの会議は施設内で実施しています。関係するサービス担当者は、会議に参加するための移動時間がかかるためやむなく欠席となることもあります。その問題を解決するため、ICTを活用し参加することで、会議が実りあるものになった事例を紹介します。

【事例紹介】最初は、福祉用具専門相談員が遠隔地から参加した事例です。当地域では、福祉用具事業所が2か所のみで、福祉用具相談員は百数十件のケースを担当しているため、毎日、市内はおろか県内外を飛び回っている状況です。この事例では、リハ会議の開催1時間前に、当事業所から片道約1時間の鳥取県で担当者会議に参加され、移動時間を考えれば、本来はリハマネIIの会議に参加出来ない状況でしたが、携帯端末より、担当者会議終了直後に車中から参加出来、歩行状態の評価を行い、適した福祉用具の検討が行えました。次は、担当ケアマネが当施設から片道約20分のケアマネ事業所から参加した事例です。その日ケアマネさんが利用者宅に訪問予定があり、リハビリ会議に参加するとそちらに支障をきたすため会議を欠席するところをテレビ会議で参加出来、ケアマネさんからデイサービス、自宅での過ごし方について報告があり、リハ職からケアプランへの助言を行うこともできました。

【まとめ】 ICT利活用による会議システムにより、移動時間の大幅な短縮を図ることができ、より多くのサービス担当者がリハビリテーション会議に参加でき、会議が充実し、利用者、またその家族からも好評を頂いています。サービス担当者の間でも、会議欠席の場合は会議で決定、確認した事項等の情報提供のみとなりますが、ICT利活用により遠隔地からでも会議に参加することで、会議が有意義となったと好評です。課題としては、当地域が山間地であり電波状態が悪くモバイルルータの使用が限定されることや、早くから光ファイバーが全戸に敷設されながら高齢者のみの家庭ではインターネット契約がなされていないこと等の通信環境面、また、関係事業者にICTへの理解が進んでいないことがあります。このICTを利用したテレビ会議は、新見医師会が早くから取り組んできた「在宅医療における遠隔医療」とWeb型地域連携バス「Z連携」の機能を利用しています。高齢者のみの世帯も増加し、公共交通機関が貧弱なため家族が会議に参加するが困難なケースもあり、家族にも在宅から会議システムによる参加も考えています。今後、Z（在宅）連携によるリアルタイム情報共有とともに普及していきたい。



上 県外の車内から会議へ参加する
福祉用具専門相談員



右 施設内での会議の様子
テレビ画面が福祉用具専門相談員

平成 28 年度認知症ケアに係る医療連携体制整備事業計画（案）

○認知症ケアパスの普及

12 月中頃 市民公開講座（在宅医療・介護連携推進事業）
・認知症ケアパスの配布

2 月頃 地域新聞への広告掲載

3 月中頃 認知症ケアパス普及研修会の開催
・認知症ケアパスの説明、配布

○認知症地域連携パスの作成

9 月 27 日 新見地域在宅医療支援システム検討委員会
・事業計画の説明、認知症地域連携パス（案）の検討

9 月 30 日 H28 年度第 2 回新見地域医療ネットワーク
・事業計画の説明、協力依頼、認知症地域連携パス（案）の様式検討

10 月 25 日 新見地域在宅医療支援システム検討委員会
・認知症地域連携パス（案）の様式化

11 月中頃 新見地域医療ネットワークの新見版情報共有書アンケートに合わせて、
認知症地域連携パス（案）のアンケート実施

12 月中頃 新見地域医療ネットワーク企画会議
・アンケート結果発表
・認知症地域連携パス（案）の修正・加筆

12 月末 新見地域在宅医療支援システム検討委員会
・アンケート結果発表
・認知症地域連携パス（案）の検討、完成、データ化検討

1 月中頃 H28 年度第 3 回新見地域医療ネットワーク
・認知症地域連携パス（案）の説明、周知

3 月中頃 認知症ケアパス普及研修会の開催
・認知症地域連携パス（案）の説明、周知

新見版情報共有書 認知症追加項目案

<p>●生活歴</p>	<p>●1日の主な過ごし方</p>
<p>●個性、性格、趣味、好み、大切にしてきたもの</p>	<p>●家庭・社会での役割、主な交友関係・他者との交流</p>
<p>●BPSDの状況</p> <p> <input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> 幻視・幻聴 <input type="checkbox"/> 妄想 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 不眠 <input type="checkbox"/> 興奮 <input type="checkbox"/> 暴言 <input type="checkbox"/> 暴力 <input type="checkbox"/> 介護への抵抗 <input type="checkbox"/> 火の不始末 <input type="checkbox"/> 不潔行為 <input type="checkbox"/> 異食行動 <input type="checkbox"/> 性的問題行動 <input type="checkbox"/> 抑うつ <input type="checkbox"/> 不安 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p>経過・特記事項</p>	
<p>●本人希望</p> <p>認知症の自覚 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明</p> <p>今後の生活への希望</p>	<p>●家族希望</p> <p>認知症の理解 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明</p> <p>今後の生活への希望</p>
<p>●後見制度の利用</p>	<p>●認知症専門医</p>
	<p>医療機関名</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>医師氏名</p>
<p>●その他の特記事項</p>	

あなたならどう対応しますか？



シミュレーション トレーニング in 新見

日時 2016年10月8日(土) 1回目 10:00 ~ 2回目 13:00 ~

会場 新見公立大学 3号館
看護実習室

講師 万代 康弘 先生(岡山大学医療教育統合開発センター助教)

溝尾 妙子 先生(新見公立大学 非常勤講師/
岡山大学医療人キャリアセンター-MUSCAT)

対象 新見市近郊介護施設の
介護士、看護師

新見公立大学看護学部教員

新見公立短期大学地域福祉学科教員

お問合せ

岡山大学医療人キャリアセンター-MUSCAT
TEL : 086-235-6963 FAX : 086-235-6834
mail : muscat@md.okayama-u.ac.jp

主催 : 岡山大学医療人キャリアセンター-MUSCAT
共催 : 新見市地域医療ミーティング推進協議会
新見公立大学
岡山県看護協会新見支部
岡山大学医療教育統合開発センター
岡山県地域医療支援センター岡山大学支部